

国語 第4学年 和室と洋室のよさをしょうかいしよう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：和室と洋室を同じ観点で比べ、紹介する目的に合う内容を要約する。よい悪いの順位を付けず、どの使い方にどの特徴が関係するかを段落の内容から捉える。C(1)ア・C(1)ウの学習として、和室と洋室の比較表と紹介文。観点、特徴、用途との関係、中心となる内容を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、段落の説明と事例の関係を捉え、紹介の目的に合う中心となる語や文を選んで要約しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ア・C(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：和室と洋室の比較表と紹介文を残す。観点、特徴、用途との関係、中心となる内容を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ア・C(1)ウに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：自宅の部屋の好みだけで評価する。片方の特徴しか紹介しない。これについて、観点を、和室と洋室を列にして対応させる。本文の説明がない欄を推測で埋めない。要約した文を元の段落に戻して確かめ、出典の示し方を練習する。〔知識及び技能〕(2)イとC(1)ア・C(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「和室と洋室のどんなよさを紹介したいですか。同じ観点で比べたどの説明を残すと伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ア・C(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：和室と洋室の比較表と紹介文は紙に記録できる。観点、特徴、用途との関係、中心となる内容を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ア・C(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ア・C(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：和室と洋室のどちらが優れているかを決めるのか。

返し：C(1)ア・ウの学習であり、比較の観点と紹介の目的をそろえる。どちらが好きかの多数決ではなく、本文の特徴と用途を関係付けた説明を評価する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「和室と洋室のどんなよさを紹介したいですか。同じ観点で比べたどの説明を残すと伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ア・C(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

